自然微生物農法実績資料

（2000 年～2004 年）

1.　2000 年～2003 年の畑作・・・・・・・・・・・・　Ｐ2～Ｐ3
2.　2003 年の雑草抑制実験・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ4
3.　2000 年～2003 年の稲作・・・・・・・・・・・・　Ｐ5～Ｐ9
4.　2004 年の畑作・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ10～Ｐ17
　● Ｉさん（北見市小泉）での実験
　● 実験総括
　● （有）有機産業（静岡県）のニンジン
　● 沖永良部島　和泊町役場の
　　自然微生物農法　実施事例
5.　2004 年の稲作・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ18～Ｐ19
6.　中国での自然農業栽培テストが実現へ・・・・・・　Ｐ20～Ｐ22
7.　マスコミ紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ23

地球家族

2000年から2003年の畑作

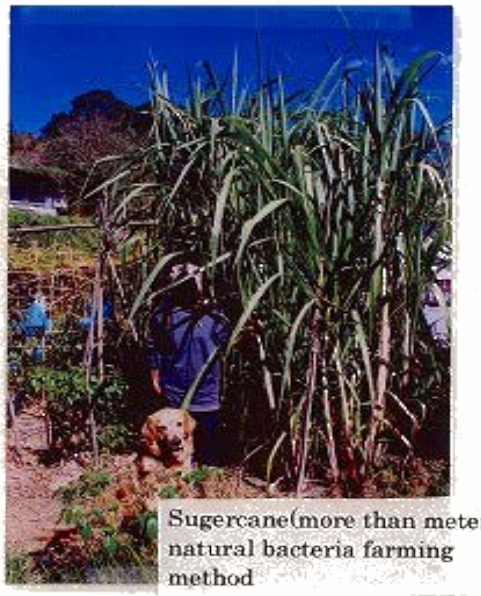
サツマイモの葉の醗酵液の葉面散布による収穫実例

自然微生物農法によるカイワレ大根

右側のもの　左側は一般の栽培

5

トウモロコシ 2003年8.21
自然微生物農法 成長促進液のみ



サトウキビ 3メートル以上
自然微生物農法 成長促進液
2003年

2003年 ニガウリ(40~50cmの長さ)
自然微生物農法 台風により背丈30cmにも満たないニガウリの茎と葉に成長促進液を散布

2003 年の雑草抑制実験

東京都町田市の協力のもと町田市の 3000 平方メートルの管理地を使用して実施。
雑草の葉を醗酵させた液体を 2003 年 6 月上旬に散布したが 12 月になっても雑草の
発生が見られず、同じ場所で大根やほうれん草の栽培に成功した・

2000年～2003年の稲作

2000年　秋田県にて

蒸散酸素流（稲やまこも）の葉面散布が隣の水田まで飛んで，その部分3m4mだけ稲の成長がたこい

2001年産
イセヒカリ(新種)
微生物農法
新潟こしひかり
微生物農法
秋田こまち
従来農法

3

２００３年９月３日

茨城　岩井　コシヒカリ

Koshihikari

(September 30,2003

in Ibaraki)

usual farming
method

一般農法

natural bacteria farming
method

自然微生物農法

4

２００３年９月２日（茨城県　岩井市）

September 2,2003(Ibaraki)

natural bacteria farming method　コシヒカリ　usual farming method

Left　Koshihikari　Right

自然微生物農法　一般農法

2003 年 10 月 2 日撮影・長崎県佐世保市

イセヒカリは一つの穂に平均約２００粒実っている。従来農法は一つの穂に平均８０～９０粒。収穫量は２倍以上あります。味もたいへんおいしいです。

2004 年の畑作

●I さん（北見市小泉）にご協力頂き、自然微生物農法の実験をして頂きました。

大葉青チソ　　成長促進液

平成 16 年 9 月撮影（北見市・I さん）向かって右～大葉青チソ・・・ハウスの天井に届こうとしている。　　向かって左～なすび　　成長促進液　数回

平成 16 年 7 月撮影（北見市・I さん）　　トマト　　成長促進液

平成 16 年 8 月撮影（北見市・I さん）メロン　　平均 2.5 キロ～3.5 キロの大玉
成長促進液、土壌栄養液

平成 16 年 7 月撮影（北見市・I さん）　　とうもろこし　　成長促進液 1 回散布

平成 16 年 8 月撮影（北見市・I さん）　　ヤーコン　　成長促進液散布

平成 16 年 9 月撮影（北見市・I さん）　かぼちゃコンテストで三位入賞 189.5ｋｇ
成長促進液、土壌栄養液、コンブ醗酵液

平成 16 年 10 月撮影（北見市・I さん）長ネギ　成長促進液
長ネギの手前はスコップです。

平成 16 年 7 月撮影（北見市・家庭菜園）ほうれんそう　　成長促進液 2 回散布

平成 16 年　　実験総括

（プロ農家）　　6 件

ほうれんそう、白菜、青紫蘇、トマト、ニラ、ニンジン、とうもろこし、ヤーコン、長ネギ、ナス、キュウリ、カボチャ、レタス、大根、メロン、ビート、春菊、イチゴ、アスパラ。

概ね良好な成績をあげることが出来ました。特に葉ものは収穫が多く大きなものが出来ました。ニラ、イチゴ、ビートは期中からの実験でしたので来年に期待しています。
今年は殆どの野菜が葉面散布液の散布のみでしたが収穫量が増えました。
土壌栄養液は殆ど散布しませんでした。気温が高いことも影響しましたが、葉面散布液の効果が実感できました。

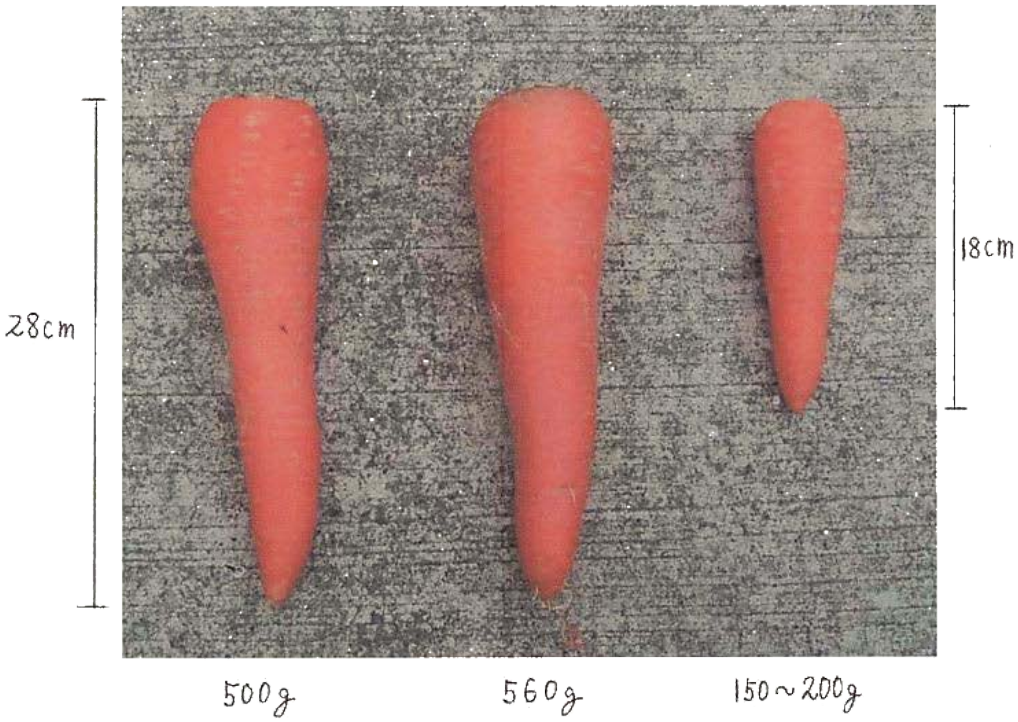
また、N 農園（訓子府）のトウモロコシに散布したところ台風の強風でも倒れませんでした。特筆すべきは散布しなかったトウモロコシの多くは倒壊したことです。これは醗酵液が茎を太く強く育てたことの証明になりました。

（家庭菜園）　　8 件

「こんなに良く実るのは初めてだ」という声を多く頂きました。
特にトマトとトウモロコシでの反響を聞きました。トマトはミニトマトが普通のトマトの様に、大きく鈴なり成った家庭菜園が 4 件ほど出ました。
トウモロコシは皆さん大変良く育ったとのことです。
ハーブではフェンネルが良く育っていました。野菜系のハーブにはかなり効果が有るようです。

静岡県　㈱有機産業の人参　平成１６年６月

左側２本は自然微生物農法で栽培　　右側は従来農法で栽培



沖永良部島　和泊町役場の
自然微生物農法　実施事例

（１）手前の１トンタンクでサトウキビ葉面散布液醗酵

（２）醗酵液を散水タンクローリー車に積込

（３）地下水の貯水池より散水タンクローリー車に水を積込、５０倍希釈液とする

（４）サトウキビに、葉面散布液を散布
散水は約５０メートルの幅で散布する
１０アール・反の面積の散布は、２分以内で出来る

（５）サトウキビ畑の葉面散布中
葉面散布液には２つのタイプを用意
①　光合成促進
②　成長促進＆糖度向上
③　その他にサトウキビ用土壌液体肥料も散布

２００４年9月１３日

2004 年の稲作

長崎県　佐世保市　T さんの　田んぼの映像です。

（上段の映像）

2004.5.20 に田植をしています。

(下段左の映像) 自然微生物農法で育てた稲です。

2004.7.17 現在の映像です。
KOSHIHIKARI　×　ISEHIKARI（新品種）
自然微生物農法で育てた稲はもう実り、
来週（8 月 15 日～8 月 22 日）には、稲刈り（収穫）をします。
普通では信じられないスピードで成長しています。
収穫量も約２倍です。その後、２期作の田植えをします。
そして通常の４倍の収穫をめざします。

（下段右の映像）

従来農法の稲です。2004.7.17 現在の映像。
品種：HINOHIKARI　　周辺の田んぼの映像です。
ご覧のとおり、まだ稲穂も出ていません。

長崎県　佐世保市　T さん

（左側の稲の説明）

自然微生物農法　※（新混血種）

高さ　９５CM

２００４．５．２０　　田植　１株

２００４．８．１現在　　分蘖　２５本（無効分蘖無し）

刈り取り予定　８．１５～８．２２

成長促進液　　葉面散布３回

※　KOSHIHIKARI　×　ISEHIKARI　の混血種

８月に２回目の田植を行う。田植は２株づつ行う。

それによって年約４倍の収穫量を目指す。

（右側の稲の説明）

従来農法（HINOHIKARI）

高さ８７cm

２００４．４．２０　田植　５～６株

２００４．８．１現在　分蘖１５本

出穂無し

刈り取り予定　１０．２５

中国で自然農業栽培テストが実現

中国では三農(農業、農村、農産物)が、
ここ 10 年くらい前から問題としてクローズアップされ、
進んだ工業に対して非常に遅れており、
都市と農村の所得格差が大きな社会問題となっています。
穀物の在庫量は政府レベルで 1 年分と逼迫しています。
昨年から科学院へ自然農法の紹介をして来ましたが、
中国政府が試験栽培を受け入れてくれることとなり、
先日中国へ打ち合わせに行って来ました。
窓口は海外技術の担当をする
The State Administration of Foreign Experts Affairs です。
栽培テストは隆化県の太平庄村で、
北京から北に 500km 離れた有機栽培の盛んな村です。
国及び県の行政、町村の行政、
村民と共産党の書記と全体の受入調整は終わっており、
現地の農農が稲と本豆と中国野菜の自然農法栽培テストを実施してくれます。
農家の人達に自然農法栽培の仕方、植物は誰が育てて、何故大きく育つか、
農薬と化学肥料は何故必要ないかの話をしました所、
聞き手の皆様の目が次第に輝いて来て、
非常に自然農法に興味を持ってくれました。
別れ際に村長さんが私に抱きついてくれました。
この様子ならテスト栽培は上手くいくと確信しました。
中国政府は実験栽培が上手くいけば、
国家プロジェクトとして自然農法を実施するとのことでした。
日本の技術が中国を援助出来ることが出来れば、
21 世紀の新しい展望が開けて来ます。
中国の経済バブルの崩壊は避けることは出来ません。
失業者には自然農業を学んでもらい、
郷到に帰って農業をしてもらうことが失業対策の最高の答えだと思います。

（下記に８枚の写真が掲載されています。訪中期間２００４年４月中旬）

The State Administration of
Foreign Expects Affairs
P. R. of china

中国政府　担当窓口　国家外国専家局

太平庄村　村長、町長、外国専家局副所長
太平庄　共産党書記

自然農法栽培テスト実施地　隆化県太平庄村

太平庄村　テスト稲作田　　A

太平庄村　テスト稲作田　　B

太平庄村　テスト稲作田　　B

自然農法栽培テスト実施地　隆化県太平庄村

太平庄村　テスト稲作田　　A

地球家族2020

雑草抑制に新手法

地球家族2020（河合勝代表、東京都渋谷区）は、農薬や除草剤を全く使用せず、雑草の発生を抑制することに成功した。

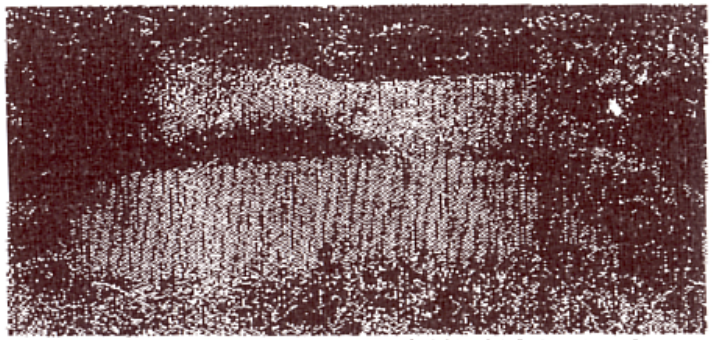
雑草の発生を抑制する実験は、東京都町田市の協力のもと同市の3000平方㍍の管理地を使用して実施。雑草の葉を発酵させた液体を、昨年6月上旬に散布したが、昨年12月になっても雑草の発生が見られず、同じ場所で大根やほうれん草の栽培に成功している。

雑草の発生を抑制するにもかかわらず、野菜類は順調に生育する理由について、河合代表は「雑草には役割分担があるため」としている。

具体的には、「雑草はその土地に不足している栄養を補うために発生するものであり、土地に栄養を補うごとに異なる雑草が生え続け、栄養がバランス良く含まれた時点で雑草は発生しなくなり、栄養がバランス良く含まれた土地では野菜などが順調に生育する」（河合氏）というものだ。

この考え方に従って、雑草の葉を発酵させた液体を散布することによって、雑草の発生を抑制することができる。

この方法は、「屋上緑化での雑草発生を抑制することにもちろん利用できる」（河合勝代表）という。



中央部分は見事に雑草の発生が抑制されている

グリーン・アーキテクチュア・トリビューン　9月22日号　(株)創樹社